



大人も子どもも楽しめる明戸マレットゴルフ場



仲間づくりや生きがいづくりの活動もさかん



田植えに挑戦する羅賀小学校の子どもたち

入寮。生活を共にし校内のふれあいホールで語り合つ中で、生徒たちは違う地区の風習や文化を学び理解します。それは将来の協働につながる貴重な体験となっています。

生涯学習の推進は、アビリティ学習センターを拠点として、田野畑村生涯学習推進計画(アビリティプラン)を着実に実施しています。

また、田野畑村の奨励スポーツであるマレットゴルフとウォーキングは多くの人々に愛され、広く浸透しています。

子どもたちを守り、はぐくむ活動を通して生まれる住民の自治活動。村ではこの協働の萌芽も大事に育てていきたいと考えています。

村づくりは人づくり、人づくりは教育から。田野畑村ではこのテーマのもと、昭和40年から「教育立村」「思考村」という独自の構想を掲げ、人材育成に取り組んできました。

そのひとつが、ALT(Assistant Language Teacher=外国語指導助手)を招聘して行われている国際交流事業。村とのかかわりが深い早稲田大学と交換留学生制度を実施していたアメリカ合衆国インディアナ州リッチモンド市にある私立アララム大学の卒業生を迎え、昭和52年、県内の先陣を切ってスタート。これをきっかけに59年には真内市町村からなる(財)

岩手国際理解推進協会が誕生。国際交流活動が本格的に取り組まれるようになりました。

そんな長い歴史を持つ村の英語教育ですが、授業は歌やゲームを盛り込んだ楽しい内容。また村民との交流も積極的に行われ、どこに行ってもALTは大人気。田野畑では、子どもたちも大人も日常的なふれあいの中から知らず知らずのうちに異文化への興味と理解を深めています。

人間同士の理解、融和に役立つているもうひとつの存在は、田野畑中学校と寄宿舎です。昭和49年に6つの中学校が統合された際に設けられ、村内6地区の生徒が

キーワード
【教育】
Education

「学ぶ」基本は好奇心

机の上の勉強はもちろん大切ですが、体を使っての体験も大事です。子どもから大人まで田野畑村の人々の好奇心は無限大なのです。



小学校での授業は歌やゲームを取り入れ、英語に親しみます。ALTとのふれあいも大きな楽しみ